

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹  
検校 哲也

**Q1** 深く起こすと、土が生き返ると聞きましたが、どう起こすのが教えてくださいます。

**A1** 畑に霜が降りてくるころ、土を掘り起こして、寒気に当てる作業を「寒起こし」と言います。凍った土が日光に当たって溶ける、これを繰り返すことで、土の状態が通気や排水の良い団粒構造に変わってゆきます。また、害虫や病原菌も減ります。

野菜が根を伸ばす範囲は、深さ20〜30cmまで、これを作土と言います。この部分だけの土で作物を長年作り続けていると、栄養バランスがくずれたり、水はけが悪くなったりします。そこで、シャベルを使って土を掘り起こします。底の土が日光に当たるよう、ひっくり返します(写真1)。病原菌や害虫の少ない土と作土を入れ替え、耕して通気

性を良くします。

まず、①シャベルで30cmほど掘り返します。②1週間ほど天日干して、③かたまりをこなし、よく耕します。④酸度を調整します。畑一面に苦土石灰を1㎡当たり100〜200g散布し、耕します。⑤1週間ほどしたら、堆肥を1㎡当たり約200g入れて耕し、地力を高めます。

あとは、畝を立てて春野菜の植え付けを待ちます。

天地返しとは

作土と30cm以上深いところにある土(心土)を入れ替える作業を「天地返し」と言います。連作障害の対策になりますが、心土は硬く締まっています。堆肥を少なく有機質もありません。堆肥を入れるなどの手当てが必要で、家庭菜園では、シャベルが届く深さで十分でしょう。

みなさんは、スコップ、シャベル、どう使い分けていますか。小

さい移植(こて)を、関西ではスコップ、関東ではシャベルと呼ぶそうです。

JIS規格では、足がかけられる掘りやすい剣形をシャベル、土砂をすくいやすい先が直線で容量がある角形をスコップ(写真2)としています。移植(こて)の規格は見つかりませんでした。

**Q2** オルトラン粒剤とダイアジノン粒剤を同時に撒いても問題ないでしょうか。

**A2** オルトランは、地上の葉を食べるアブラムシやアオムシ、コナガなどの駆除に使います。ダイアジノンも、土の中の虫専用です。ネキリムシ、コガネムシの幼虫など土に潜り込んでいる害虫が対象になります。対象害虫が違うので、一方だけでは効かない虫が残ってしまいます。ですので、両方使えます。同時に使っても問題ありません。

一般的には、根から吸収して茎や葉に効果が出るオルトランを植穴処理に、ネキリムシを狙って株元にダイアジノンを土壌表面に散布します。

例えば、キャベツや白菜の苗を植えるとき、①植穴にオルトラン粒剤を混和し(写真3)、②苗を植えます(写真4)。③その株元にダイアジノン粒剤を散布し(写真5)、④最後に散水します。

大根などの種を播くときは、①播種前にオルトラン粒剤を土壌混和してから、②種を播きます。③芽が出たら、株元にダイアジノン粒剤を散布し、④最後に散水します。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

オンライン農業塾  
はじめました!

▼動画はコチラ▼



2021 1月の運勢  
双子座 5/21~6/21

全体運  
健康運

上昇運です。迷ったり何か変だなと感じたりした場合は結論を急がないように。じっくり進めた方が好結果に  
考え過ぎはよくありません。入浴で気分転換 幸運を呼ぶ食べ物 ミズナ